

高木仁三郎市民科学基金 助成選考委員 公募のお知らせ

高木仁三郎市民科学基金
代表理事 河合 弘之

みなさまには、高木仁三郎市民科学基金（高木基金）の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。高木基金は、下記の通り、助成選考委員の一般公募を行います。

高木基金は、2000年10月に亡くなった高木仁三郎の遺産と一般のみなさまからの会費・寄付を財源とし、「市民科学」をめざす日本国内及びアジアの個人やグループを対象に、調査研究活動への助成を行っています。おかげさまで設立から18年間の助成実績は、国内枠320件、助成総額1億7565万円、アジア枠67件、2985万円、合計387件、2億550万円となりました。

高木基金の助成選考にあたっては、最終選考の際に、公開プレゼンテーション（一般公開での研究計画発表会）を行い、一般市民の意見を取り入れ、また、助成研究の成果についても、積極的に市民社会に還元し、市民の評価にゆだねることを重視しています。助成選考のために、選考委員会を設置しておりますが、選考委員の選任に当たっては、理事会が「市民科学」に造詣の深い方へ就任を依頼するかたちを基本としつつ、2007年以降は、選考委員の一般公募を行い、市民の立場で社会的な問題に関わってこられた方などに、そのご経験に基づくご意見をいただくことで、「市民科学」にふさわしい助成選考を目指してきました。

2011年3月の東日本大震災・福島原発事故以降、高木基金への助成応募は、核・原発問題の比重が高まっておりますが、高木基金が目指す「市民科学」の課題は、原発問題に限られるものではなく、現代の科学技術およびそれに関わる社会政策等の「負」の側面に関する様々な問題に、私たちが取り組むべき「市民科学」の課題が山積しています。高木基金は、そのような課題に取り組む一般市民、特に、若い世代の方々を、今後とも積極的に支援していきたいと考えております。次世代に豊かな自然と平和で民主的な社会を引き継いでいくために、高木基金の活動に共鳴し、選考委員の立場から「市民科学」に力を注いで下さる方からの積極的な応募を期待しております。

募集内容	高木基金の助成選考委員1名（現在7名のところに1名を追加するもの） 助成選考の流れと選考委員の役割などについては裏面をご覧ください。
任 期	2年間（2019-2020年度）
応募資格	高木基金の活動に共鳴する方であれば、学歴、年齢、性別などの資格条件は定めません。今回の募集では、いわゆる学識経験者や専門家といわれる方より、市民の立場や視点から、様々な社会問題の現場で活動された経験などをお持ちの方からの応募を期待しています。
応募方法	次の2点の書類を高木基金事務局に郵送か電子メールでお送り下さい。 1) レポート「私の考える市民科学の役割・課題・可能性」 A4用紙 2ページ以内で書式は自由。 2) 履歴書（市民活動や調査研究等の経験を含むもの） A4用紙 2ページ以内で書式は自由。写真を貼付してください。
応募〆切	2019年10月15日（当日消印有効）
選考方法	理事による書類選考および面接の後、11月末までに理事会で決定します。
謝礼など	一年間の選考委員の業務全体について、謝礼50,000円をお支払いします。 また、選考委員会、公開プレゼンテーション、成果発表会への参加に要する旅費・宿泊費などは実費を支給します。

詳しくは、裏面をご覧くださいとともに、ご不明の点は、事務局にお気軽にお問い合わせ下さい。



特定非営利活動法人 高木仁三郎市民科学基金
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町4-15 新井ビル3階
TEL・FAX 03-3358-7064 E-mail info@takagifund.org

高木仁三郎市民科学基金 助成選考委員公募に関する参考資料

・現在の選考委員（五十音順）

安藤 直子 氏	東洋大学理工学部応用化学科 教授
小澤 祥司 氏	環境ジャーナリスト、飯館村放射能エコロジー研究会 共同世話人
関 礼子 氏	立教大学社会学部現代文化学科 教授
寺田 良一 氏	明治大学文学部心理社会学科 教授
寺町 知正 氏 *	元 岐阜県山県市議会議員
原田 泰 氏	特定非営利活動法人霞ヶ浦アカデミー 理事
吉森 弘子 氏 *	元 生活協同組合パルシステム東京 理事長

* 寺町氏、吉森氏は一般公募で選ばれた選考委員です。

・現在の理事・監事

代表理事	河合 弘之（弁護士 さくら共同法律事務所 所長）
理事	高木 久仁子
理事	嶋津 暉之（水源開発問題全国連絡会 共同代表）
理事	鈴木 譲（元 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）
理事	竹本 徳子（東北大学大学院生命科学研究科非常勤講師）
理事	平川 秀幸（大阪大学 CO デザインセンター 教授）
理事	藤井 石根（明治大学 名誉教授）
理事	細川 弘明（京都精華大学人文学部 教授）
理事	山下 博美（立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部 准教授）
監事	中下 裕子（弁護士、ダイオキシンの環境ホルモン対策 国民会議 代表理事）
監事	濱口 博史（弁護士、濱口博史弁護士事務所）

・助成募集の分類

助成内容	年間予算	募集時期
国内の個人・グループへの助成	1000万円	11～12月
アジアの個人・グループへの助成	200万円	8～9月

この他に、緊急の案件について個別に助成を行う場合があります。

・過去の助成応募・助成実施件数・金額

助成分類	2018年度		設立以来 助成累計
	応募受付	助成決定	
国内の個人・グループへの助成	39件 2813万円	18件 865万円	320件 1億7565万円
アジアの個人・グループへの助成	29件 1567万円	4件 199万円	67件 2985万円
合計	68件 4380万円	22件 1064万円	387件 2億550万円

・選考基準（要点）

1. テーマ性：市民科学にふさわしいか
2. 研究方法の妥当性
3. 成果活用方法の妥当性
4. 上記に加え、問題の深刻さ、緊急性、課題設定の先見性、応募者の「市民科学者」としての将来性などを考慮する。
5. 科研費や他の助成財団などからも十分な助成を得ることが可能な案件は、優先しない。

・選考の流れと選考委員の役割

1. 国内の個人・グループへの助成の場合

- ・例年 11月～12月 10日まで応募を受け付け、12月下旬までに事務局が応募書類一式を選考委員に送付する。（40～50件程度）
- ・選考委員は1月下旬頃までに、各自、すべての応募案件に対してA～Dの格付けと応募金額に対する金額査定を行う。（これを事前評価と称しています。）
- ・例年、1月末から2月上旬頃に、選考委員会を行う。
- ・選考委員会では、各選考委員の事前評価に基づき、書類選考通過者を選抜し、それぞれに対する査定額を決める。
- ・選考委員会には、選考委員とともに、理事・監事も参加し、意見を述べるができるが、選考委員会としての結論は、選考委員のみの合議によって決める。
- ・選考委員会での査定額合計は助成予算の120%分を目処とする。
- ・3月上旬頃に公開プレゼンテーションを行い、その場での議論をふまえた上で、理事会が助成先を決定する。助成先決定のための理事会には、選考委員も参加し、意見を述べるができる。

2. アジアの個人・グループへの助成の場合

- ・例年 8月～9月中旬頃まで応募を受け付け、10月中旬頃までに事務局が応募書類一式を選考委員に送付する。（20～30件程度）（アジアへの助成の応募書類は英文です。選考に際し、事務局が応募書類の概要を日本語でまとめた抄訳の資料を添付しますが、基本的に英文の応募書類で審査していただくことになります。）
- ・選考委員は11月初旬頃までに、各自、すべての応募案件に対してA～Dの格付けと応募金額に対する金額査定を行う。
- ・選考委員の事前評価をもとに、11月末頃まで、理事会として、助成の可否および助成金額を決定する。

以上の通り、選考委員の任務は、主に以下の5点となります。

- ① 例年、10月中旬から11月上旬に、アジア向け助成の応募書類（英文20～30件程度）について、評価（採点）を行う。（公募選考委員の初年度はアジア枠の選考業務はありません）
- ② 例年、12月下旬から翌年1月中旬に、国内向け助成の応募書類（40～50件程度）について、評価（採点）を行う。
- ③ 1月末から2月上旬頃に都内で開催される国内向け助成の選考委員会（平日又は週末の終日）に参加し、選考委員会としての書類選考を行う。
- ④ 3月上旬頃に開催される国内向け助成の「公開プレゼンテーション」および、最終選考のための理事会（土曜か日曜の終日かけて行う）に参加し、意見を述べる。
- ⑤ 例年7月頃に開催する、前年度助成の成果発表会などに参加し、助成先の調査研究などへのアドバイスを行う。

・その他参考資料

助成募集要項 <http://www.takagifund.org/apply/>
 これまでの助成先の事例
<http://www.takagifund.org/archives2/>

以上